

1

生きものが危ない

生きものがいなくなっている現状を一緒に見ていこう。



1. はじめに

私たちの暮らしは、自然から色々なめぐみを受けることで成り立っています。今、その自然が失われようとしています。

自然が、失われてしまうと、簡単にはもとに戻ることはありません。いなくなってしまった生きものが、帰ってくることもありません。

そうなる前に、みんなで考え、今できることから始めてみましょう。

※ くるめ生きものプランは、久留米市全部を対象に作られています。



生きものを守っていくためには、生きものをよく知る必要があるよ。
みんなで、勉強してみよう。

2. 生きものがいなくなっているよ…

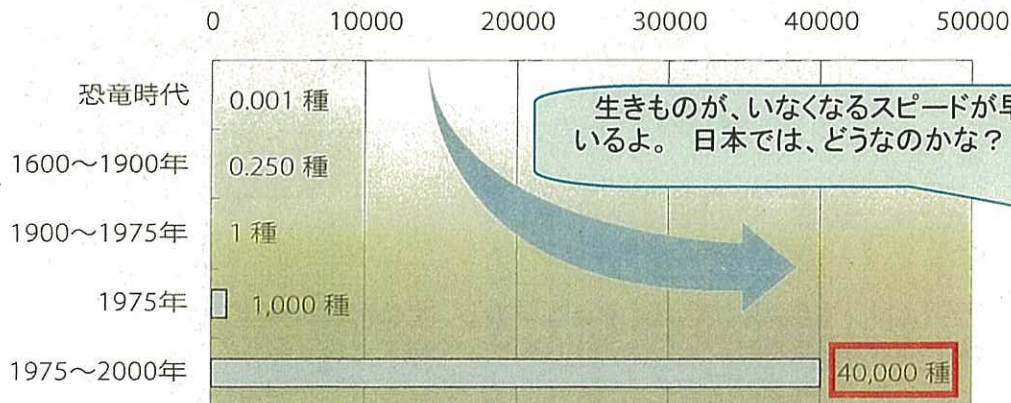
クジラのような大きな生きものから、目には見えないくらい小さな生きものまで、地球には約3,000万種類の生きものが暮らしています。

しかし、今、たくさんの生きものが、いなくなっています。

その数は、世界中で**1年間に40,000種**

これは、恐竜がいなくなった時代の数よりたいへん多い数です。

1年間にいなくなっている生きもの数



平成22年度版 生物多様性白書(環境省)

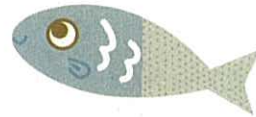
3. 日本では3,597種がピンチ！！

今、日本では分かっているだけでも3,597種がいなくなるかもしれないのです。
生きものの種類ごとに見てみると…

下の生きものを良く見てね。
少しずつ、いなくなっているのがわかるかな。



ほ乳類
(クマやウサギの仲間)
のうち
約21%



魚類の仲間のうち
※汽水・淡水魚に限る
約42%



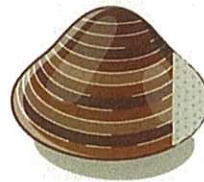
は虫類
(カメやヘビの仲間)
のうち
約37%



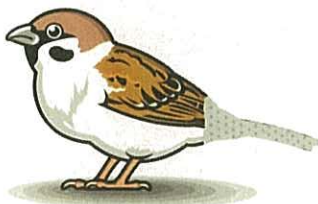
植物の仲間のうち
※維管束植物に限る
約25%



両生類
(カエルの仲間)
のうち
約33%



貝類の仲間のうち
約18%



鳥類の仲間のうち
約14%

どうして、いなくなっているのかな？



ニホンウナギ (絶滅危惧種)

日本でよく食べられるニホンウナギという種類のウナギは、国内でとれる量が減り、生息数も少なくなってきたため、日本では2013年に絶滅危惧種に指定されました。



トキ (野生絶滅)

約30年前に日本の野生のトキは絶滅してしまいました。現在は、人工繁殖させたトキを再び野生に戻す取り組みが続けられています。



出典：環境省「こども環境白書2016」より

身近な生きものに、もう会えなくなる。そんな未来が、すぐそこまできているのかもしれない。

(久留米市ではどうかな？P11を見てね！)

4. 原因のほとんどが人間の暮らし！！

私たちの暮らしは、昔から比べると大変便利な暮らしになっています。しかし、その便利な暮らしによって、生きものたちがピンチになっています。今、生きものは「4つの危機(ピンチ)」にさらされており、原因のほとんどは、私たち人間の暮らしです。

これにより、たくさんの生きものが、いなくなっています。

第1の危機(ピンチ)

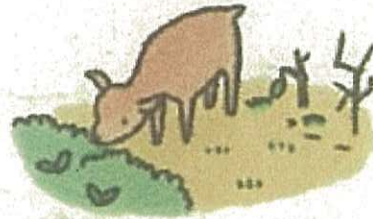
私たち人間が、道路や工場、住宅などを作るために、木を切ったり水辺を埋めたりすることで、生きものすみかをうばってしまいます。

また、生きものを多く採ることにより、生きものがいなくなっています。



第2の危機(ピンチ)

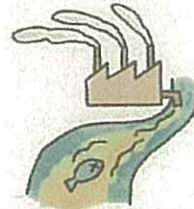
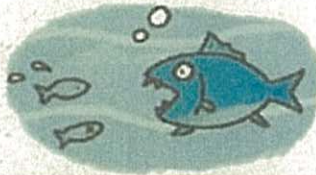
人間が、手を加えなくなった里地里山は荒れてしまい、イノシシやシカなどが増えすぎて、そこにいる生きものすみかをうばっています。



第3の危機(ピンチ)

人の手によって、他の地域などから持ち込まれた生きものを外来種といいます。

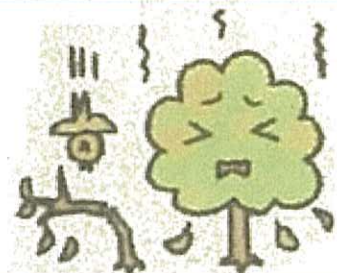
外来種の中には、その地域にもともといた生きもの(在来種)を食べたり、すみかをうばっている生きものもいます。また、自然に存在しない化学物質などによって、土や空気、川などが汚され、生きものがいなくなっています。



第4の危機(ピンチ)

私たちの暮らしから出る二酸化炭素などの働きで地球の温度が上昇することを地球温暖化といいます。

この温暖化が進むと生きものに悪い影響を与える可能性があります。



出典:環境省「こども環境白書2016」より

暮らしが便利になった一方で、生きものがいなくなっているんだ。
このままだと、どうなっちゃうのかな？



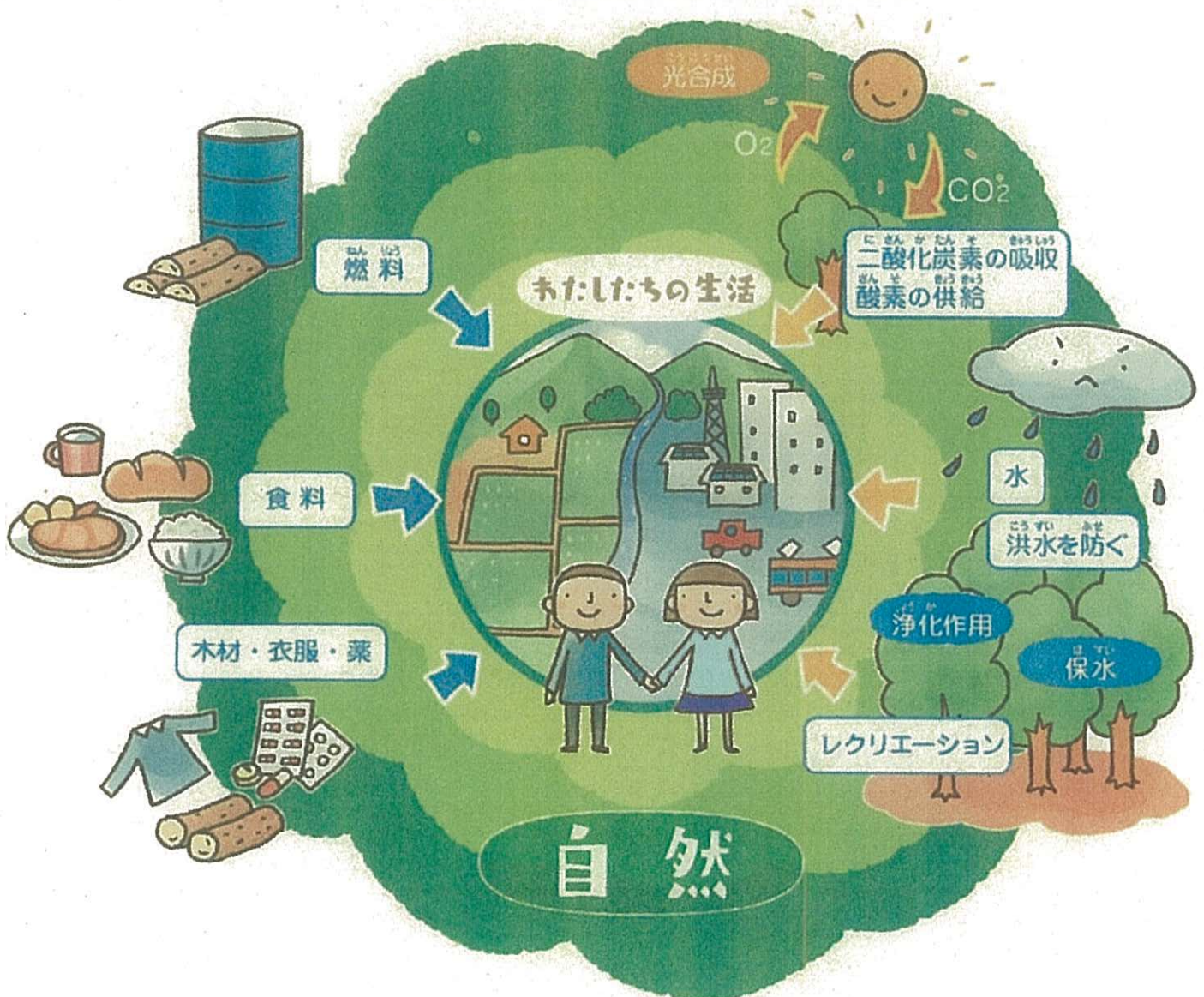
5. 生きものがいなくなると、どうなるのかな？

自然は、いろいろな生きものがいることによって成り立っています。
私たちが生きていくうえで大切な空気や水をうみだします。

また、食べ物、衣服、燃料など、生活のほとんどのものが、自然からのめぐみです。

さらに、自然は、レクリエーションの場所や心の安らぎを与えてくれたり、洪水を防いだり、災害から私たちの暮らしを守ってくれます。

わたしたちの生活を支える自然のめぐみ



出典：環境省「こども環境白書2016」より



生きものが少なくなると、自然のバランスが崩れて自然からのめぐみがなくなってしまうかもしれないよ。
久留米名物のラーメンだって、もとは動物や小麦などの生きもののめぐみでできているので食べられなくなるよ。

6. どうしたら生きものを守れるかな？

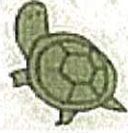
生きものを守っていくためには、その生きものがいなくなった理由を知る必要があります。
生きものがいなくなってしまう理由とは…

それぞれ違います。



クワガタにはクワガタの理由がありますし

カメにはカメの理由があります。



ホタルの場合はどうだろう。
一緒に考えてみよう。



ホタルにだって理由があるかもね。

ホタルが生きていくために必要な環境

太陽の光が差し込める
くらいの林

卵を産むための
水辺の植物

涼しい気温

適度な水の流れ

きれいな水

河川敷の木

卵

サナギが過ごす土

幼虫

サナギ

カワニナ(幼虫のエサ)

昼間休憩する
石のすきま



ホタルだけでなく、全ての生きものは周りの自然に支えられて生きています。この環境が1つでもなくなってしまうと、生きものはいなくなるかもしれません。

生きものを守っていくためには、この自然界のつながりを深く知る必要があります。

いろいろな生きものがあること、そして、それらの生きものが、「食べる-食べられる」の関係をはじめ、複雑に関わりあい、いろいろな環境に合わせて生活している事を、

せいぶつたようせい
難しい言葉で **生物多様性** といいます。



生物多様性ってかんたんに言うと、いろいろな生きもののがつなりのことだね。

7. 3つのレベルの多様性

生物多様性には、「生態系・種・遺伝子」という3つのレベルの多様性があります。
生物多様性が豊かであるには、3つのレベルの多様性が豊かである必要があります。

①生態系の多様性

森林には森林の生きものがいて、川には川の生きものがすんでいるように、生きものには、それぞれのすみ場所があります。草原や水辺(クレーク)、海や沼地といった、生態系の種類が豊富であれば、種の多様性や遺伝子の多様性が豊かになります。



森林



水辺(クレーク)



草原

森林は、たくさんの生きものを育てているけど、これだけでは駄目なんだ。
トンボやカエルのように、子供の頃は水辺で暮らす生きものがあるからね。
たくさんの生きものが暮らしていくには、森林や水辺、草原や田園、たくさんの種類の生態系が必要だよ。



②種の多様性

川の中には、魚や貝、水草など、いろんな種類の生きものがすんでいます。魚だけでも、いろんな種類、いろんな形の魚がいて、お互いに関わりあいながら生きています。



セボシタビラ



ニッポンバラタナゴ



カゼトゲタナゴ

バッタやカエル、アメンボ、鳥や魚など、いろいろな種類の生きものがあることを、種の多様性が豊かであるというよ。



③遺伝子の多様性

人間一人ひとりに個性があるように、他の生きものも、同じ種類でも違う遺伝子を持つことにより個性があります。この個性が新しくなる力になり、環境の変化に対応できる可能性が高まります。



同じナミテントウでも、少しずつ模様が違うよね。
この違いが、病気が流行ったときに、その種がいなくなるのを防いでいると言われているよ。

次の章では、久留米市のことを紹介するよ。

